11 2022
三重病院
ニュースレター
news letter vol.274

01 成長段階に応じた診療とは?
02 “ふれあい祭り2022”を開催しました
やまばとギャラリー情報コーナー
03 三重病院 肥満ヘルシーキャンプ2022
異動のお知らせ
04 病院からのお願い
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

成長段階に応じた診療とは? 子どものアレルギー編

子どもは産声をあげて生まれてから、日々、成長し、変化して、大人になっていきます。小児科医は、その成長をみまもりながら、子どもたちのいろいろな病気に取り組みます。私の専門はアレルギーですのでアレルギー疾患を例にとりながら「成長段階に応じた診療」についてお話しします。

赤ちゃんのときには――

食物アレルギーの多くは赤ちゃんの時から始まります。お子さんが食物アレルギーかな?ということで来院されたとき、まず本当に食物アレルギーかどうか確認したら、どの食べ物をどの程度避ける必要があるのか、もし間違って食べてしまった場合にはどのように対応したらいいのか、保育園に行く場合にはどうしたらいいのか、といったことをご両親などの養育者、つまり大人に説明しています。

湿疹も赤ちゃんの時、とても困りますね。診療では、皮膚がどのような状態になっているのか、どのように洗ってどんなお薬をどんな風に使うといいのか、といったことをお話ししていきます。

幼児さんには――

お子さんが3歳にもなれば、ちょっとした会話が成り立ちますから、お子さん自身が「私は卵は食べないよ」といったようなことを理解してきます。お風呂から出たらお薬を塗るんだ、自分でも腕や手につけるお薬は塗っているよ、といったようにまだまだ大人の手助けは必要ですが、自分でやろうすることが出てきます。この時期は、「すごいねぇ、自分で卵を食べないように注意しているんだねぇ。」といったように周囲が「かわいそう」といわずに個性を認めていれば大きな問題にはなりにくい時期です。診療の際には、お子さんがどんな風に自分のことを理解しているのか確認しますが、やはり大人の方に説明していくことが中心になります。

小学生になったら――

学校にあがれば、個性もいろいろですから、周りの子は何でも食べているのに自分だけ除去しなければいけない食べ物がある、自分だけが違う、悔しい、悲しい、食べるのが怖い、腫れ物に触るような特別扱いされるのは嫌、もう慣れたから平気、今更食べたくない、などお子さんによっていろんな感情がでてきます。アトピー性皮膚炎などの場合は、毎日薬を塗るのは嫌、面倒、どうして自分だけ、塗ったらきれいになる、などこれもいろんな風に感じています。この時期はお子さんの個性にもよりますが、徐々にお子さん自身が自分の病気の名前を知る、自分はその中でどのような状況であるのか理解する、お薬がどのようなものでどのように使うのか、定期的に通院が必要、といったようなことを知っていただきたいなと思っているのですが、外来診療では時間も限られてしまい、ついつい大人の方に向けてお話することが多いです。でも、この「思春期前の時期」はとても大事な時期なのです。思春期になると、これも成長過程ではありますが反抗期のためになかなかこちらの言うことに耳を傾けてくれないこともありますから、それより前にしっかり自分のことを知っておいてほしいからです。

子どもたちが病気に向き合えるためにアトピー教育入院のご利用を

ちょっとゆっくり時間をとってこれらのことを行っていくために、三重病院では「教育入院」をしています。もちろん入院と行っても、とても重症だから、とか、点滴したり、とかではありません。子どもたちがベッドに寝ているのでなく、遊んだり、普通の生活をしながら、たとえば、アトピー性皮膚炎では、すごくひどくはないけれどいつも決まった場所にあるし時々悪化する、といったときに利用してもらいます。病棟には子どものアレルギーの専門家として認定を受けている看護師が何名もいますので、スキンケアはもちろんですが、どんな病気なのか具体的に知ってもらったり、それぞれのお子さんの日頃の生活に応じた治療方針を考えていくことができます。

わかってる～っと言いながら実はほとんど理解していなかった、間違っていた、という実態がわかることもあります。緊急入院ではありませんので、金曜日から日曜日までの週末や、夏休みなどの長期休みを利用することもできます。外来でこちらからお話することもありますが、気になる方は外来でお声かけください。

喘息や食物アレルギーでもしていきます

今後、気管支喘息や食物アレルギーでも同じような取り組みをしていきたいと思っていますので、お子さんにこういったことをきちんと教えてもらいたい! というような内容があれば是非教えてくださいね。 （臨床研究部長　長尾 みづほ）